

同大が天理大に逆転負け、大体大は5位で3年連続26回目の全国へ

ワン・モア・チャンス

3年連続26回目の全国大学選手権
出場が決まった大体大フィフティーン



▲▲ ラストイヤーに26回目の全国大学選手権に出場を決めた坂田好弘監督



**全国大学ラグビー選手権セカンドステージ
グループB試合日程**

○第1戦【9日(日)】:**大体大**ー流経大(関東2位)
@西京極、12時～

○第2戦【16日(日)】:**大体大**ー天理大(関西1位)
@花園、14時～

○第3戦【23日(日)】:**大体大**ー早大(関東対抗4位)
@花園、12時～

※セカンドステージは4チーム4グループに分かれプール戦を実施する。
各プール1位のチームが、ファイナルステージへの進出権を得る。
(勝点:勝ち=5点、引き分け=2点、敗戦=0)

関西大学Aリーグ最終順位	
①天理大	7勝0敗
②立命大	6勝1敗
③関学大	5勝2敗
④近大	4勝3敗
⑤ 大体大	2勝5敗
⑥同大	2勝5敗
⑦京産大	2勝5敗
⑧摂南大	0勝7敗

大学選手権
出場

入れ替え戦
※5位～7位は、3チーム間の試合での総得失点差による順位



PR・蔵守主将

関西大学ラグビーAリーグの最終節が1日、近鉄花園ラグビー場で行われ、天理大が同大を32-29の逆転で降し、7戦全勝でリーグ3連覇を果たした。敗れた同大と大体大、京産大が2勝5敗で並んだが、3チーム間の試合での得失点差で大体大が他2チームを上回り、5位で8日に開幕する全国大学ラグビー選手権セカンドステージへの出場が決まった。全国を勝ち抜いた全16チームが4グループに分かれてリーグ戦を行い、各グループ1位が1月2日に国立競技場で行われるファイナルステージ(準決勝)に進出する。大体大はグループBに入り、流経大(関東2位)、天理大(関西1位)、早大(関東対抗4位)と対戦する。【永富慎也、写真も】

「ラグビーの神様は必ず見ている。今できることをしっかりとやりなさい」。坂田好弘監督は常日頃から選手たちにこう語りかけていた。ラストイヤーを迎えた「世界のサカタ」の言葉通り、大体大は不死鳥のように蘇った。

ワンモア・チャンス。

「出場が決まった瞬間」ホツとしたPR・蔵守主将(体育4年)は振り返った。「このままリーグ戦で終わっていたらどうなっていたか...。練習を終わってミーティング中に(天理大・同大)の結果の速報が入って、部員全員が泣き叫んでいた。腰が抜けるような感覚だった」。

大体大は3年連続26回目の全国大学選手権出場最後の切符をつかんだ。昨年までは、ノックアウト方式で行われていた同大会が今年からその方式が変更された。全16チームが4つのグループに分かれて、各グループの1位がファイナルステージ(準決勝)に進出することになり、大体大は少なくとも3試合を全国の強豪チームと対戦することとなる。

大体大は初戦(9日、西京極)で関東大学リーグ2位の流経大と対戦する。8月の管平合宿でのOP戦では28-43で敗れた相手だが「セットプレーは十分通用した」と蔵守主将は手応えを話す。ブレイクダウンでの強さを見せ付けられた流経大に「しっかりバックスでエリアを取って、相手自陣で勝負をしたい。そこからFWで(トライが)取れる」と自信を見せる。

第2戦(16日、花園)は、

関西大学リーグで21-45と逆転負けを喫した関西王者・天理大とぶつかる。「後半にあと一本取れば勝っていた」と主将は悔やむ。14-14で迎えた後半、大体大がタイブレークしたが、天理大の強力バックス陣に抜かれて5トライを奪い返された。「FWでは圧倒したい。勝てるだけの十分なチームになっている」とリベンジに燃えている。

第3戦(23日、花園)では昨年、一昨年と同大会1回戦で苦汁を飲まれた宿敵早大(関東対抗4位)と合間みえる。2日の早明戦では、得意の展開力でロスタイムまでリーグ優勝の明大をリードした。「ボールを動かされたら強いチーム。粘り強いDFができるかどうか」と蔵守主将は3度目の正直で雪辱の機会を見出す。

大体大は一発でトライを取り切るチームではない。バックスの有効なエリアマネジメントと「ヘラクレス軍団」と称されるFWの突破力で、1月2日に国立で行われる準決勝に06年以来的出場を果たし、坂田監督ラストイヤーに華を添えたいとこだ。

「失うものは何もない。関西大学リーグで悔し涙はいやと言うほど流した」と蔵守主将。「最後に坂田監督を胸上げできるような感動するような試合をしたい」。

「OUHSスポーツ」は全国大学選手権3試合を総力取材します。